

東北ブナ紀行（76）

奥田 博

奥羽山脈には、優良なブナ林が点在していた。しかし、現実には戦前戦後に伐採が行われて、優良な森の多くは消えてしまった。後白髪山は、そんな伐採現場を眺めるには、絶好な山だ。大東岳は、仙台市民に親しまれている山のひとつだが、標高の割には、長い登降を楽しめる。

117) 後白髪山(うしろしらびげ) 1422m

船形山の南側に連なるのが後白髪山で、本当に目立たない山だ。白髪山の東6kmほど離れている。船形山でも無名の山といえる。しかし、中腹には順良なブナ林が広がっている。林道入口から登山口までは、長い林道走行が待っている。この林道こそが、ブナを伐採し、運び出すために開削されたものだ。尾根に乗った所が登山口となる。

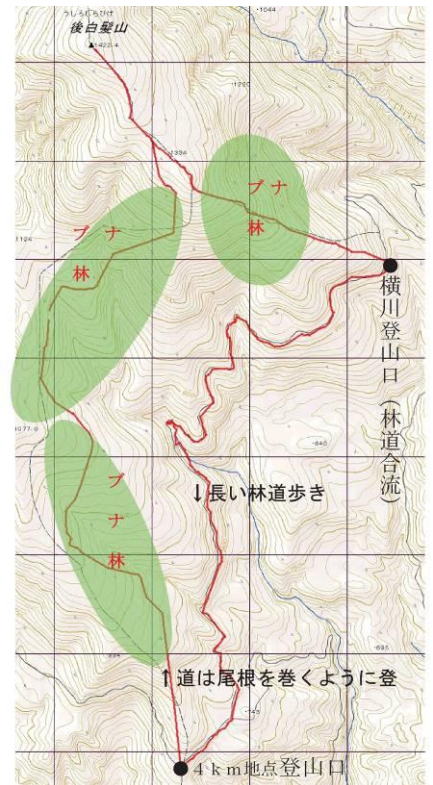
入口近くには「ブナ二次林」という看板が立っている。解説文には「林道起点から4.4kmがブナ二次林であること、昭和10年薪炭用材として、伐採天然更新により二次林が成立」と記されている。天然更新とは、基本的に植林は行わず、自然に任せることを指す。森の中を黙々と登る、といった感じで標高を稼ぐ。太いブナも随所に見られ飽きさせない。穏やかな登りは、涸れ沢を越えると急坂に差し掛かる。急坂が収まると、木々は矮小化して高度が上がってきたことが分かる。やがて展望の山頂到着となる。



入口近くには「ブナ二次林」という看板が立っている。解説文には「林道起点から4.4kmがブナ二次林であること、昭和10年薪炭用材として、伐採天然更新により二次林が成立」と記されている。天然更新とは、基本的に植林は行わず、自然に任せることを指す。森の中を黙々と登る、といった感じで標高を稼ぐ。太いブナも随所に見られ飽きさせない。穏やかな登りは、涸れ沢を越えると急坂に差し掛かる。急坂が収まると、木々は矮小化して高度が上がってきたことが分かる。やがて展望の山頂到着となる。

コースタイム: 登山口(3時間) 山頂(1時間20分) 横川登山口(1時間10分) 登山口

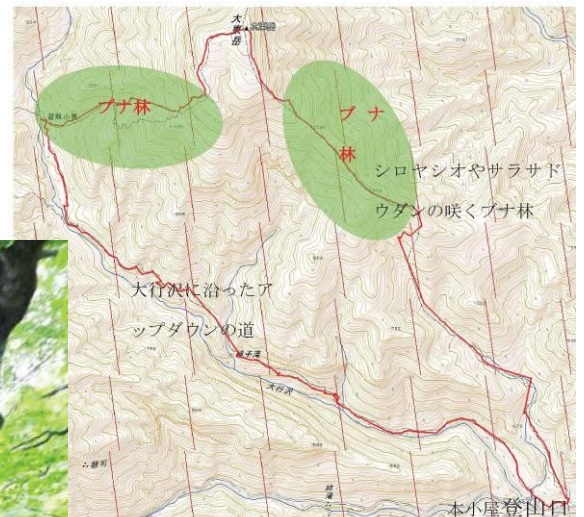
後白髪山の太いブナは、何かを語りかけてくる



118) 大東岳 1365m

遠くから大東岳を望むと、台形をして特異な山頂部を呈している。東北の人間を思わせる鈍重な山容だが、全山がブナ山とは思えない。この山にはロープウェイはおろか、車道も入っていない。意外に原生的な自然が残されており、登り甲斐のある山だ。ブナは中間部から山頂までが、密度は高いが、登山口から山頂までどこでも出合える。登山口からしばらくは沢沿いに進む。沢を離れ尾根に乗り、五合目を過ぎると本格的なブナの森となる。この頃から、シロヤシオとサラサドウダンが目立つようになる。特にサラサドウダンは圧巻だった。

山頂の前後も矮小化したブナが見られるが、急な下りが始まると次第にブナの森が広がる。ブナは大行沢出合の避難小屋まで続いた。若いブナ二次林もあって、適度に人の手が加わったようだ。小屋からは大行沢に沿って長い下りが待っている。



コースタイム: 登山口(2時間) 五合目(1時間40分) 山頂(1時間15分) 避難小屋(2時間) 登山口

大東岳山麓近くで出会ったブナは、ミズナラとダンスを楽しんでいた